



NPO法人 富山の名水を守る会

機関紙 第32号

新型コロナウイルスの感染が収まってきたかと思った矢先、新たな変異株「オミクロン株」の国内流入で「第6波」に備えた対策が進められています。今年度は、感染予防に配慮しながら4回の名水探訪を無事に終了しました。今年度のまとめとして8月以降の活動を中心に機関紙32号をお届けします。

継続実施 16年目

いたち川沿い湧水6ヶ所の 簡易水質検査・清掃活動実施

- 実施日 8月28日(土) 午前10:30~11:30
気象:曇り 気温:32℃
- 検査項目 水温・湧出量・pH・硬度・導電率
一般細菌・大腸菌群
- 参加者数 11名(理事)
- 考察
 - ・気温は32℃で、今まで(過去15年)の中で一番気温が高かったが、6ヶ所の簡易水質検査が円滑にできた。
 - ・湧出量は向川原町の水神社の湧出量が昨年より多かった。他の箇所は昨年並みであった。
 - ・水の汚れ具合は、上水道並みで昨年同様である。水温は、15℃前後であった。
 - ・一般細菌及び大腸菌群とも問題なく飲用可と認められる。
 - ・湧水周辺のいたち川沿いには、ゴミがほとんどなかった。コロナウイルス感染症の防止のため外出自粛で人流がなかったとも考えられる。



周辺のゴミ拾いも

8月29日北日本新聞記事

湧き水の水質を調査

富山 NPO法人「富山の名水を守る会」(青木正樹理事長)は28日、富山市のいたち川沿いにある湧き水の水くみ場6カ所で、水質調査と美化活動を行った。

調査は県内の安全・安心な水を守り、後世に残そうと毎年実施している。

会員11人が参加し、同市大泉町の水神社を出発。石倉町延命地蔵尊や向川原町福壽不動尊を経て、同町の水神社まで約1*

富山の名水を守る会

を歩き、水温計やストップウォッチ、メスシリンダーなどで水温や流量、硬度などを測った。

湧き水を浸した試験紙をサンプルとして持ち帰り、大腸菌の有無を検査する。水くみ場の清掃や周辺のゴミ拾いも行った。

調査結果は順次、同会のホームページで公表する。

青木理事長は「名水を安心して飲んでもらえるよう、今後も活動に励んでいきたい」と話した。

いたち川沿い湧水の水質検査一覧表 (R3.8.28)

番号	名称	場所	水温(℃)	湧出量(L/分)	pH	硬度	導電率(μs/cm)	一般細菌	大腸菌群
1	水神社の水(南)	富山市大泉町	15.2	3.5	7.2	120	177	5	不検出
2	水神社の水(北)	富山市大泉町	15.0	6.0	6.8	120	177	2	不検出
3	子安地蔵尊の水	富山市室町通り南側	15.4	8.2	7.2	100	121	0	不検出
4	石倉町の延命地蔵の水	富山市石倉町南側	15.2	8.4	7.2	120	141	3	不検出
5	泉町子宝延命地蔵の水	富山市泉町 東側	15.1	5.3	6.8	120	141	0	不検出
6	水神社の水	富山市向川原町	14.8	18.2	6.8	120	141	0	不検出



メスシリンダーを使って湧出量の測定

